

報告2/オバマ政権の内政・外交の評価

久保 文明（くぼ ぶんめい）
東京大学大学院 法学政治学研究科教授

オバマ政権の内政については、就任して一ヶ月目で大型の景気刺激策を通じた点は非常に大きな成果があった。その後、世論調査での支持率が急速にさがり、成果がなかなかなかったが、健康保険改革を今年の3月に通した。これもオバマ政権にとってかなり大きな成果ということになると思う。今年の11月の中間選挙にはあまりプラスにはならないと思うが、オバマ大統領再選の時にはプラスになるだろうと思う。なおかつ、金融規制改革法案がまもなく通りそうである。そうすると、結果的には、1年半で、大型景気刺激策、健康保険改革、金融規制改革という3つの大きな政策において成果がでていくということになるのかもしれない。

しかし、ご存知のとおり、現在ルイジアナ沖での石油流出事故が思ったよりもひどい。今まで最悪のエクソン・バルディスの事故の、7、8倍の被害かもしれない、と言われている。ブッシュのハリケーン・カトリーナ、あるいは日本の口蹄疫のように、政府の対応の遅れのような形になりつつあるので、今後少しこれが影響してくる可能性がある。

外交については、前政権との断絶と書いたのであるが、あまり成果はなかった。そもそも外交は相手があることなので、そんなにすぐには成果があがるものではないという気はする。おそらく今までで目に見える成果は、ロシアとの核削減合意と思う。アプローチとしては、最初はやはりブッシュ政権との違いをともかく一生懸命出したがっていた。これは低姿勢であったり多文化主義的なアピールであったり、北朝鮮やイランとも対話をするという形であったりした。これは素人という面もあるし、オバマ氏の出身母体が民主党のわりと左のほうであり、わりと右のほうにいたヒラリー・クリントンと戦う関係上、やはりその支持基盤に対する配慮の面もあるという感じもする。

あるいは、もう少し考えていると思われる面もある。いきなりイラン制裁となるとアメリカの中でも、世界でも、ブッシュと同じではないかという反発がある。緩いほうからやって、少しずつここまで進めていけば比較的国内世論や国際社会がついてくるという論理もあるのだろう。

ソフトなほうからはじめたときの問題は、いかに少しずつ強硬なほうに転換させていくかということだと思う。ブッシュ時代の米国関係をリセットして低姿勢と交渉に徹して成果をあげたのは対ロ関係だと思う。もしもマケインであれば、ロシアは民主化から遠ざかりグルジアに侵攻したりしていたので、むしろまた封じ込める対象にしなければいけない相手であるというような、外交アプローチも可能だったと思われる。

オバマはかなり低姿勢であったが、しかし、成果はあげたという面があると思う。

現在おそらく、北朝鮮政策は、結果的にブッシュ政権、特に第2期のブッシュ政権よりもオバマのほうが硬いのではないか。北朝鮮から見てこのオバマ外交はどうみえているのか。

最初は低姿勢身のようにみえながら、意外に強硬である。今は哨戒艦のこともある。オバマには時間がまだあるので、それほどあせる必要がないのであろう。簡単に無原則に北朝鮮に譲るわけにはいかないという部分があるという感じがする。北朝鮮からどう見えているのか、平岩先生に付け足してもらえればと思う。

イランに対してはつい最近、国連の安保理決議で制裁決議を獲得するのに成功し、結果的にブッシュ政権よりかなり進んだところまで来ているのではないかと思う。そういう意味で最初、柔らかいほうから始まったと思われたオバマ外交であるが、最近ここに来て、特に2年目に入って、強硬な部分がかかなりでてきているという気がする。同じく中国に対してもそういう部分があって、それは、7月に一度少し手打ちをしている。今後も、この同じように、つまり一応手打ちをしても全部管理できないため、貿易問題であるいは議会も、独自のアクターとしていろいろな形でアクションを起こすだろうと思われる。人民元の問題などは、やはりアメリカがずっと待てるわけではないかもしれない。だが、イランの問題で協力は必要だ、という部分は残ると思われる。

高原氏にも伺いたい点であるが、イランに対して中国は一時非常に硬く、アメリカには協力しないと思われた。しかし、長年アメリカも粘り強く説得し、中国も国際的な場で、なぜイランの問題に協力しないのかと言われ続けてきた。ここに来て、中国は譲歩し、一応国連の制裁決議には賛成した。同じようなことは北朝鮮に対してもあるのか、北朝鮮はまったく別なのか、違うとすると、何故なのか、どの辺りが違うのか、ということをお伺いできればと思う。

(以上)

※敬称略／役職等は報告当時のものです。

※固有名詞等の表記は、報告者によって異なる場合があります。